

第七回國際道路會議の日程に就て

藤井眞透

交通の趨勢に對應し併せて失業對策としての道路改良の成果を論議し各國の工法を批判する爲に獨逸ミュンヘンに於て開かる、第七回國際道路會議は各國共異常の關心を有し着々その準備を行つてゐるが獨逸に於ては已に次の如き日程を發表した。

昭和九年九月三日 月曜

午前十時 道路會議總會 工科大學大講堂

午後一時三十分 國際午餐會 トーンハルレ大廣間

午後五時 ランデスマステルング公園に於ける道路

博覽會 開會

四日 火曜

午前九時 會議の部會 工科大學

午後二時 部會 工科大學
午前九時 部會 工科大學
午後二時 部會 工科大學

六日 木曜

午前八時 シュレスバツヘル橋工事、オーベルアンメルガウ、ガルニツシユバルテンキルヘン、
ワルシエンゼー水力工事視察

七日 金曜

午前九時 ミュンヘン附近の道路及道路工事視察

午後八時 晚餐會 工科大學、グロースオーデトリウム

ム

八日 土曜 閉會式

獨逸内地の視察旅行は三又は四班に分れ、九日出發各八日乃至十日間の日程で道路、交通技術を主として視察し、各班共十八日に首都ベルリンに到着し、同市の招待あり、翌十九日會議代表の分散會として大晩餐會ある豫定である。獨逸の會議事務所は Deutschen Ausschuss für die internationalen Straßen Kongress in Berlin, W. S. Wilhelmiustrasse 80 に定められた。

ミヨンヘン工科大學は道路工學教授としてノイマン博士、ロンクリートにオットー・グラーフ教授あり、ミヨンヘンにあるバベリア州内務省道路局長フィルビツヒ等が主として斡旋してゐる。

その後の福岡縣試験鋪裝

坂 本 一 平

道路會議創設の父の一人で巴里の第一回總會で防塵工法で異常の關心を集めたエルнст・グニーグリーミネシチ博士はその後「タールの父」と稱せられ毎回出席を缺がさなかつたが昨年七十歳の賀を各國の技術家から祝はれた程で次の會議でも何かあるだらうし、六月スイスのルヴァルンで開かれた國際道路用タール會議でも英國のコーン、佛國のブーテビュ、ガフリアン、その他が集り、道路會議に期待してゐ事が大であり、本年始めから各國共に會議提出の報告起草委員會を任命して佛國の如きは土木省、道路局長、巴里市技師長などもその一人であるから會議は相當盛大であると思はれる。」

「道路の改良」第十四卷第九號及第十號に「コンクリート」及膠石試験鋪裝報告として紹介せる本縣試験鋪裝に關し、